

ば谷昏は yok-yan でヨハネ即ちシリヤ語を始めパーラ語ソグド語などの yohan(an) を寫したものに相異なる。従つて次の入湯といふのは無論洗禮 (Baptism) を意味するものに外ならぬ。

聖在於硤中居住云々 (130—131)。こゝに聖といふのは預言者ヨハネ(谷昏)を指したもので、ヨハネが硤峽中、即ちジヨルダン河谷に居住したことを述べたものである。生れて已來酒肉を喫せずといふのは好いとして、「唯食生菜及蜜蜜於地上」とあるのは、馬太傳六一ノに「蝗蟲と野蜜を食へり」と見えるのに照して、蝗蟲と生菜との相違がある。「蜜蜜於地上」の一蜜字は衍か、然らざれば地上の次に脱文が存するのであらう。

顔容似薄闇 (136)。顔容は前文の涼風、即ち天より來求が來の誤なることは前に述べたれる聖靈の顔容であるが、薄闇といふのは此の儘では何とも解し難い。思ふに此の二字は白鴿・鴿鶉などの通音で、鳩の義に外ならぬであらう。約翰傳三二ノ馬太傳三一六一六を始め、聖書中には諸所にイエスが洗禮を受けて水より上れる時、天開かれ、聖靈が鴿の如く其の上に降れるを見たとの記事がある。

属神 (138)。瀦神 (139 142)。文義から考へると属神といふのは邪神の義で無ければならぬ。邪神に當る語で属神に似た文字は厲神であるから多分属は厲の誤であらう。そうして集韻に據ると、瀦はまた厲に作らるゝことが見えるから、瀦は瀦の誤と認むべきであらう。

迦沙 (145)。此の二字は普通に袈裟と書かるゝ文字に相當する。馬太傳九二〇二〇に「其の衣の裾に捫れり」とあるのを始め、諸所に見ゆる同様の語に相應するものである。

年過三十二云々 (152)。イエスの生涯のクロノロジーについては古來諸説紛々たる有様であるが、こゝにはその三